

2025年9月6日(土) 14:00~14:30 放送

ダイアベティス

糖尿病を上手に
マネジメント
していくために

ダイアベティス

「糖尿病医療のいま」

企画協力：JADEC（日本糖尿病協会）

糖尿病（ダイアベティス）は、1921年にカナダの研究チームがインスリンを発見し治療ができるようになったことで、糖尿病腎症や糖尿病網膜症、糖尿病性神経障害といった合併症を予防し、寿命の延伸と生活の質の向上につながりました。しかし、今日の糖尿病医療に至るまでには、幾多の課題を克服してきたことは言うまでもありません。1970年代、日本ではインスリンの自己注射が医療法で認められていなかったため、患者が一日に何回も医療機関に行き、打つ必要があり、その負担はとても大きいものでした。そして、多くの患者や医療者からの「自己注射をできるようにしてほしい」という声の高まりを受けて、JADEC（日本糖尿病協会）と日本糖尿病学会などが中心となって、自己注射の厳格なルールを考え、当時の厚生省に働きかけ、1981年にインスリンの自己注射が保険適用となりました。その後も、家庭での血糖自己測定やインスリン注射の注射針に互換性を持たせるなどの取り組み、糖尿病に対するスティグマ（偏見）払拭のためのアドボカシー活動等を進め、今日の糖尿病医療を支えています。医学、医療はめざましい進歩を遂げていますが、その進歩の原動力となっているものは、糖尿病とともに生きる人の声であり、その声に応えようとする医療者、研究者の努力です。今回の番組では、現在の糖尿病医療が、患者と医療者の協働によって成り立っていることを正しく理解することが、糖尿病を上手にマネジメントしていくために大切と考え「糖尿病医療のいま」取材します。

解説

JADEC（日本糖尿病協会）

理事長 清野 裕 先生

アジア糖尿病学会 理事長

JADEC

業務執行理事 山田祐一郎 先生

関西電力病院 副院長

JADEC

業務執行理事 津村和大 先生

川崎市立川崎病院 病態栄養治療部・教育指導部 部長

JADECペイシェントサポート委員会

委員 小川洋平 先生

日本小児・思春期糖尿病学会 理事
新潟大学 医歯学総合病院小児科(糖尿病・内分泌) 講師

JADEC

理事 矢部大介 先生

国際糖尿病連合西太平洋地区 理事
京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授

JADEC

業務執行理事 矢島鉄也 先生

元厚生労働省 健康局長

JADEC

業務執行理事 安西慶三 先生

医療法人社団高邦会 高木病院 副院長
佐賀大学名誉教授